

INTERNATIONAL RESEARCH CLERKSHIP 2018



2018年度派遣された16名の皆さん

= EXPERIENCED =

派遣先:

 Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine,
University of Michigan Medical School


私はアメリカのミシガン大学でリサーチクラークシップを行いました。

最初の頃は、自分の知識の少なさが原因で、細かい研究内容や実験の方針を理解できない部分があり、悔しい思いをしました。なんとか理解したいという思いで努力していると、徐々に先生方のディスカッションにも参加できるようになり、自分なりの意見を述べることもできるようになりました。

より一層、実験へのやる気が出ましたし、予想に反する結果が得られたときも、その結果を考察することが非常に楽しくなりました。

理解できないことや難しいことに対しても、屈することなく熱意を持って頑張ることが研究をするうえで大切なことであり、それは今後の自分の人生においても大切なことだと学びました。日本でもミシガンでの経験を活かして頑張りたいと思います。

派遣先:


 Orthopedic Pathophysiology and Regenerative Medicine Unit,
Rizzoli Orthopedic Institute, Bologna, Italy.

私はイタリアのボローニャにある研究室で約2カ月間、実習させていただきました。

研究室には先生方が20人程度いらっしゃって、今回は主に3名の先生から教わっていました。皆さんとても親切で、ラボの雰囲気も非常に暖かかったです。先生方の実験を見学させていただいたり、整形外科のmeetingや新しい機械の説明会への参加、関連論文の読解などを通じて沢山の実験操作や疾病に関する知識のみならず、実験の組み立て方等、今後の学内での研究活動に活かせるような考え方を得ることができました。

加えて、海外で活動されている研究者の方々、そしてイタリアの医学部生や工学部生など、新たな友人と出会えたことも心に残る体験でした。

派遣先:

 Department of Surgery, National Taiwan University Hospital, and college of Medicine,
National Taiwan University

台湾大学病院で痔腫瘍に関する臨床研究をさせていただきました。

手術や外来、回診も見学し、その背景を含めて臨床研究がどのようなものであるかを勉強することができました。

外科の先生の患者さんへの丁寧な接し方、手術への真剣さ、他の職種の方や学生への優しさなどの身近な視点から国の枠を超えた医師同士の繋がりとといった広い視点まで、様々な角度からたくさんを学びました。

また、現地の学生と交流することで、彼らが積極的に医学を学んでいること、英語で活発に議論すること、留学生に対して親切に接してくれることなどを知り、自分を見つめなおす機会になりました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に感謝し、学んだことを生かしてこれから励んでまいります。